

令和5年度病害虫発生予察情報 特殊報 第1号

令和5年12月1日
広島県西部農業技術指導所

1 害虫名 イナーナネマルハキバガ *Lateantenna inana*

2 発生作物 わけぎ

3 特殊報の内容 わけぎでの加害を初確認

4 発生経過

(1) 発生確認年月日 令和3年10月18日

(2) 発生地域 広島県南東部

(3) 確認の経緯

令和3年10月、広島県南東部の貯蔵中のわけぎ種球において、チョウ目幼虫が食入し内部の鱗片を食害する被害を確認した。

神戸植物防疫所に同定依頼したところ、令和5年4月に外部形態より *Lateantenna* 属の一種（チョウ目ネマルハキバガ科）であると同定された。

さらに令和5年11月、京都府立大学大学院生命環境科学研究科（大島一正准教授）によるDNAバーコーディング領域（COI）の塩基配列解析により、イナーナネマルハキバガ *Lateantenna inana* (Butler, 1881) であると判明した。

(4) 他県での発生状況等

本種は平成30年に鹿児島県のウンシュウミカンで発生が確認されたことが報告されているが、その他の発生状況は不明である。

5 形態および生態

成虫は、翅を閉じた静止時に頭部から翅の先端まで約5mm。前翅は、灰色で多くは前翅中央に小黒点が一対ある（図1）。

幼虫の体長は終齢で約10mm、体色は赤みがかった乳白色、頭部は赤褐色（図2）。

発生生態はわかっていない。

6 被害および主な寄生植物

幼虫はわけぎ種球に食入し内部の鱗片を食害する（図3）。食害を受けた種球は萎凋し、組織が乾燥、空洞化し、虫糞で満たされる。この中で幼虫は繭を作り、蛹となる（図4）。

7 防除対策

(1) 現在、イナーナネマルハキバガに対する登録農薬はない。

(2) 被害を受けた種球や、使用しない種球は放置せず速やかに適切に処分する。



図1 イナーナネマルハキバガ成虫



図2 イナーナネマルハキバガ幼虫



図3 幼虫に食害されたわけぎ種球



図4 繭中の蛹

○病害虫発生情報に関するお問い合わせ先
西部農業技術指導所（植物防疫チーム）
（〒739-0151 東広島市八本松町原 6869 電話 082-420-9662）
広島県立総合技術研究所 農業技術センター生産環境研究部
（〒739-0151 東広島市八本松町原 6869 電話 082-429-0521）
農林水産局農業技術課
（〒730-8511 広島市中区基町 10-52 電話 082-513-3559）

○病害虫発生予察情報は、広島県ホームページで閲覧できます。

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>